

第 20 回 日本外来小児科学会 予防接種委員会 議事録

2016 年 12 月 23 日（金・祝）12:00～15:00

於：ホテル新大阪 東ロステーションビル

出席者：岡藤 隆夫、落合 仁、武内 一、田原 卓浩、永井 崇雄、中村 豊、
藤岡 雅司、宮田 章子、牟田 広実、横田 俊一郎、渡辺 博（11 名）

欠席者：太田 文夫、寺田 喜平、宮崎 千明、吉川 哲史（4 名）

委員長挨拶（永井委員長）

- ・委員の固定化が問題点となっており世代交代の必要がある。

日本外来小児科学会 理事長就任挨拶（横田委員）

- ・様々な問題について迅速な対応が取れるようにしていきたい。

日本小児科学会 副会長就任挨拶（宮田委員）

- ・会長に慶応大学の高橋教授が就任された。
- ・予防接種感染症委員会のメンバーのうち開業医は峰先生のみである。
- ・外来小児科での案件を反映させていきたい。

報告事項

1. 第 26 回日本外来小児科学会 年次集会（永井委員長）

- ・無事終了し安堵している。
- ・レベルの高い予防接種関連のシンポジウムや講演ができたと自負している。

2. 第 26 回日本外来小児科学会年次集会シンポジウム 4 ；ワクチン新世紀 今後の展望
（中村副委員長）

- ・立ち見が出るほど大盛況であった。

3. 予防接種後副反応に関するサーベイランスシステム構築について（中村副委員長）

- ・神谷 元 先生(感染研)からメールにて現状報告をいただいた。
 - 1) 感染研の倫理委員会にて活動の承認を受けた。
 - 2) 特にワクチンの副反応を疑わせる事象がなかったので具体的活動は行っていない。

4. 麻しん風しん混合ワクチンの供給状況に関する緊急調査（中村副委員長）

- ・日本外来小児科学会の一斉メール送信システムを利用し 2016 年 11 月 30 日にアンケートを行った。
- ・回答数が 10 以上の都道府県で、「注文しても必要な本数が納入されない」と回答した率が高い県は、神奈川県 63%、兵庫県 58%、大阪府 52%、埼玉県 47%、東京都 40%という

結果だった。

5. 日本小児科学会予防接種・感染対策委員会（永井委員長）
 - ・本日委員会開催、宮崎委員と吉川委員が参加している。
6. 「小児の予防接種の安全性に関する多施設共同前向きコホート研究」（宮田委員）
 - ・同時接種に際し重篤な非可逆的合併症は認めなかった。

協議事項

1. 第 27 回日本外来小児科学会年次集会；進捗状況とワクチン関係の講演等について（落合委員）
 - ・テーマは「リエゾン（連携）；他職種の限りない連携にむけて 三重からの発信」
 - ・ワクチンのリテラシー（予防接種を安心してうけてもらうために）をテーマとして、トラブル防止の工夫、ムンプスワクチン、水痘ワクチン、B 型肝炎ワクチン、副反応（アレルギー）などについてセミナーを開催する。
 - ・特別講演のテーマは「ワクチン」（故庵原先生に捧げる）で、座長を中山哲夫先生と熊谷卓司先生にさせていただく。
 - ・予防接種委員会主催のワークショップを行うか議論した。
 - ・引き続きメーリングリスト上で検討する。
2. 定期接種委託料の算定について（藤岡副委員長）
 - ・A 類疾病の定期接種の費用については、市町村の財政の負担とならないよう、国は総務・財務・厚労の 3 大臣合意に基づき、その 9 割を公費負担とするために普通交付税措置をしている。
 - ・厚生労働省が総務省に対する地方交付税要求時にもちいている接種単価はワクチン価格＋問診料等で算定している。
 - ・接種費用のうち問診料等については、診療報酬点数を参考にしていることが多いが、適切な問診料等の水準のあり方について検討していく必要がある。
 - ・第 27 回日本外来小児科学会年次集会で本内容をテーマにワークショップを開催したい。
3. 予防接種委員会の内規について（永井委員長）
 - ・内規案では委員会の構成、委員の定数と任期を明記した。
 - ・引き続きメーリングリストで検討する。
 - ・1 月中に発効予定である。
4. ムンプスワクチンの定期接種に向けて
 - ・新たな髄膜炎発生頻度調査のデザインについて議論したが結論はでなかった。
 - ・引き続きメーリングリスト上で検討する。

次回委員会

6月～7月の開催を目途にメーリングリストで調整予定。